

自分自身を磨くために

「桑くわの実会」

結成して三十五年

目が不自由な人に、とつとり市報やさまざまな図書を「点字翻訳（以下点訳）」や「テープ音訳（以下音訳）」をしているボランティアグループがある。その名は「桑の実会」。鳥取市社会福



自宅で行う音訳は、生活音などに気を配りながら録音します。

社協議会が開催した点字講習会に参加したメンバーが、昭和四十三年二月に結成した。今年で三十五年を迎える。現在の会員は、点訳が二十一人、音訳が二十七人の合計四十八人だ。主な活動は、市報や盲学校から依頼された参考書の点訳・音訳、米子にあるライトハウス（視覚障害者福祉施設）と提携して行っている図書の音訳、そして県立図書館で行っている対面朗読など広範囲に渡って



音訳グループのみなさん



点訳グループのみなさん

る。依頼があれば個人的なサービスマも行うとのこと。毎月二回、さざんか会館に集まり、点訳のグループは翻訳作業を、音訳のグループは持ち寄った録音テープのチェックなどを行う。「わたしは音訳ですが、専用の録音室がないため、メンバーはそれぞれの自宅で録音しています。外の音や生活音が入らないように、締め切った部屋の中で吹き込みます。夏はクーラーをつけることができないので大変です」と、会長の安部徳子あべのりこさん（美秋野・五十八歳）は笑顔で話す。

違いますが、共通して言えるのは、みんなが「自分自身を磨くために」に活動していることだと思えます。ボランティアは、「一方的に与える」とか「してあげる」というのではなく、自分に得るものがあるから続けていけるんです」。安部さんが長続きの秘訣を語る。

そして、「いろんな分野で点訳・音訳は必要ですし、求められています。そのためにも、活動範囲を広げていきたいと思えます。入会された人には、半年間講習をきちんと行います。いつでも、入会OKですよ」と、今後の展望を視野に思いを語った。桑の実会の活動に注目だ。

自分のために ボランティア

「それぞれのきっかけは



点訳は、地道な手作業で行われています。